

平成26年度(第55回)科学技術週間推進要綱

平成26年1月  
文部科学省

平成26年度(第55回)科学技術週間については、「科学技術週間について」(昭和35年2月26日閣議了解)等(別添参照)に基づき、下記の要領で推進する。

記

1. 趣旨

平成11年7月にハンガリーで開催された世界科学会議において、「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」が採択されてから既に10年余、科学技術と社会の関係はますます緊密なものとなり、科学技術イノベーションに対する国民の期待も高まっている。

科学技術イノベーションは、人類の進歩への貢献、最先端の‘知’の領域の開拓、国民生活の利便性・生活水準の向上等、様々な目的、役割を担うものであるが、平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」や「科学技術イノベーション総合戦略」においては、現下の我が国の最大かつ喫緊の課題である「経済再生」に向け、科学技術イノベーションの潜在力を集中してフルに発揮する必要がある、科学技術イノベーションに適した環境を創出するための取組を強力に推進するとされている。

科学技術イノベーションを経済的、社会的に価値あるものとしていくためには、国として、広く国民各層に発信し、説明責任の強化に努めるとともに、国民との対話や情報提供をさらに進めることにより、国民の理解と支持と信頼を得ることが重要であり、科学技術に対する国民の理解と関心を広く醸成する科学技術週間の行事への期待がこれまで以上に大きなものとなっている。

その一方、東日本大震災を受けて、科学技術の可能性と潜在的リスクに関する情報共有の在り方など、科学技術と社会との関わりについて再構築していくことが社会的に要請されている。

国としては、こうした国民の期待や社会的要請を的確に把握し、政策の企画立案及び推進に適切に活かすとともに、政策の成果や効果を広く国民に明らかにし、社会に還元していくことがますます重要となっている。

以上の状況を踏まえ、科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深めるため、平成26年度の科学技術週間において、関係機関の創意工夫と協力の下、本趣旨に沿った各種の行事を積極的、かつ効果的に推進する。

## 2. 標語

「みんながしあわせになる かがくがいいな。」

## 3. 期間

平成26年4月14日（月）～4月20日（日）

## 4. 行事の実施

上記1の趣旨に沿って、関係機関及び報道機関等の協力を得ながら、以下の行事が科学技術週間の期間を中心として全国的に実施されるよう推進する。

### (1) 文部科学省行事

科学技術功労者、科学技術振興功績者等の表彰式等

### (2) 一般行事

- ① 講演会、研究成果の発表会、映画会、見学会、展示会等
- ② 発明相談、技術相談等
- ③ 大学、大学共同利用機関等における公開講座の実施等
- ④ 試験研究機関、工場等の一般公開
- ⑤ 科学館、博物館等の特別公開等

### (3) 青少年参加行事

実験教室、科学講演会、映画会、見学会等

### (4) 広報活動への取り組み

- ① 政府広報、インターネット、ポスター等各種媒体を通じた科学技術週間の周知
- ② サイエンス・チャンネル等による科学技術週間の周知

# 科学技術週間について

昭和35年2月26日 閣議了解

## 1. 趣旨

科学技術に関し、ひろく一般国民の関心と理解を深め、もって我が国の科学技術の振興を図るため、科学技術週間を設け、できるかぎりこの期間中に各種の科学技術に関する行事を集中的に実施し、目的達成に資するものとする。

## 2. 期間

期間は、毎年4月18日を含む1週間とし、昭和35年度は、4月18日から24日まで（1週間）とする。

## 3. 行事

科学技術関係機関および一般の協力を得て、たとえば科学技術功労者の表彰、試験研究機関の公開、講演会、展覧会、映画会、座談会等の開催、科学技術に関する資料の公表など、この期間の趣旨にそった行事を全国的に実施するものとする。

---

## 科学技術週間の期間について

昭和49年12月6日

科学技術庁

昭和35年2月26日の閣議了解に基づく「科学技術週間」の期間は、昭和50年度以降は、毎年、4月18日を含む月曜日に始まり日曜日に終わる1週間とする。